



本学術集会もなんとか現地開催を行うことができました。学術集会のテーマは「承前啓後」といたしました。先人たちに感謝と敬意の心を持ちつつ、より良い未来を切り開くために学びを深めるという意味を込めました。

山口大学医学部 救急・総合診療医学講座准教授の藤田基先生に高気圧酸素治療に関するご講演をいただきました。さらに、久留米大学医学部環境医学講座准教授の森松嘉孝先生に環境医学に関するご講演をいただきました。これらの2つの講演では、それぞれの先生がこれまで行ってきた高気圧酸素医学、環境医学に関する研究に関すること、さらに今後の展望に関することについてのご講演を賜りました。

また特別講演として、KM バイオロジクス株式会社代表取締役社長の永里敏秋様に新型コロナウイルス感染症と不活化ワクチンに関するご講演をいただきました。この講演では、同社が取り組んでいる新型コロナウイルスに対する不活化ワクチンの開発とその臨床的意義に関することだけでなく、さまざまな感染症に対するワクチンに関することについてのご講演を賜りました。

さらに、医師による一般演題セッションおよび臨床工学技士によるシンポジウムセッションを催しました。症例報告、感染症流行下での高気圧酸素治療に関すること、高気圧酸素治療に携わる医師に関すること、医療安全に関すること、タスクシフト・シェアに関すること、高気圧酸素治療の広域ネットワーク構築に関することなどが発表されました。これらのセッションでは、現地開催ならではの非常に活発な討論が行われました。

1日間の短い学会ではありましたが、参加者は最新の知見を学び、活発な討論が行い、大変有意義な学会となりました。最後になりましたが、本学術集会に多大なるご支援を賜りました肥後医育振興会におかれましては、心より深謝申し上げます。大変ありがとうございました。

第38回熊本医学・生物科学 国際シンポジウム開催報告

熊本大学国際先端医学研究機構
特任准教授 水野 秀信

2023年12月14日(木)・15日(金)の2日間にわたり、第38回熊本医学・生物科学国際シンポジウムを開催いたしました。14日は熊本大学臨床医学教育研究センター1階奥窪記念ホールにおいて、15日は熊本大学発生医学研究所1階カンファレンスルームにおいて、合わせて6つのセッションが行われました。

本シンポジウムは「機能的脳神経回路システムの構築メカニズム」をテーマに、国内外の大学・研究機関から生理学者・数学者・理論学者・イメージング研究者など様々な分野の先生方をお招きし、数学的アプローチから脳神経回路が構築される仕組みなどを討議することを目的としました。国内外の著名な先生方を筆頭に、若手研究者に至るまで約60名の参加者により多角的な議論を深めることができました。

熊本大学・小川久雄学長の開会挨拶から始まり、Dr. Patrick Kanold (Johns Hopkins University)、Dr. Natalia De Marco García (Weill Cornell Medicine)、戸田智久先生 (Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg)、森下博文先生 (Mount Sinai School of Medicine) がそれぞれ「神経回路形成における感覚経験の役割」、「抑制性ニューロンの神経回路構築における役割」、などについて講

